

令和元年度 山形県立置賜農業高等学校学校 学校評価書

【学校教育目標】
1 心身ともに健康で、主体的に逞しく生きる人間を育成する。
2 豊かな教養と主体的学習の習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。
3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。
4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。

【めざす学校像・生徒像】
(1)「いのち」を育み、「こころ」を育み、「ひと」を育む学校
(2)明るく逞しい置農生、元気・活力・勢いを創り出す

【学校経営方針】
(1)「いのち」をつなぐ人づくり
(2)「学び続ける」人づくり
(3)「地域とつながる」人づくり

達成度
A : 達成できた
B : 概ね達成
C : やや不十分

重点目標		具体的取組目標、方策・数値目標	自己評価	成果と課題、次年度へ向けた改善策
豊かな心の育成 「いのちの教育」の推進と規範意識・	① 互いのいのちを尊重する ア 全ての生徒に自尊感情と自己有用感を イ いじめ0(ゼロ)に	○ 良好な人間関係づくり ○ 生徒に寄り添う丁寧で的確な面談の実施 ○ 年2回(6月・12月)のいじめ発見調査アンケート実施に伴う確実な生徒ケア	A	●人間関係の悩み等を抱える生徒もおり、今後とも定期的な面談やカウンセリング等を通して情報共有体制を整え、互いを認め合う良好な人間関係の構築に資する支援に努める。 ●いじめの把握に努め、本年度計11件の事案を認知した。学年・生徒保健部を中心とした対応ですべての事案が解消されている。入学時のトラブルが多い傾向を踏まえ、入学時オリエンテーションや講話等による初期指導を充実を図る。
	② 基本的生活習慣の確立 アルーはより個性を伸長 イ 情報モラルとコミュニケーション力の育成	○ 法令遵守への対応 ○ SNSの適正な活用指導 ○ コミュニケーション力向上のための取組実施	B	●交通安全、薬物乱用防止、保健、情報モラル(スマホ・ケータイ安全教室)を実施しているが、今後とも生活習慣確立や規範意識高揚の取組を継続していく。 ●全職員による登校指導・校外内挨拶運動を4月から2月まで毎月(年間11日)実施し、服装指導等にも重点的に指導に取り組んだ。
	③ 豊かな心の育成 ア 奉仕活動の充実 イ 読書指導の充実	○ ボランティア活動の推進 ○ 読書機会の積極的活用と推進	A	●町内街道の花苗植栽や、町夏まつりに参加しながら、地域とのコミュニケーションをはかることができた。今後は、町民・小・中学校とも連携しながらボランティア活動を行いながら、地域との交流をさらに深めていく。また、各種ボランティア活動から勤労と精神の一端を学び、奉仕への意欲を醸成することができた。 ●蔵書点検を実施して不要書籍を除籍し、今後の書籍管理に向けた整備を行った。書籍配置を変え分類記号順に整備したことで、書籍検索が容易になった。今後はとも生徒が本を手に取り読んでいくよう、展示の工夫や図書委員の活動を行っていく。
	④生徒の主体性の育成 ア 生徒会活動の活性化 イ 農業クラブ活動の推進	○ リーダー講習会 ○ 計画的準備と運営指導 ○ 農業クラブ全国大会運営と成功	A	●農業クラブ全国大会の運営、競技を通して、生徒の主体的な取組みが大会成功の大きな原動力となった。農業学習、農業クラブ各種発表会や技術競技会などで多くの成果が得られたことを踏まえ、今後とも生徒が活躍できる機会として取り組んでいく。 ●生徒全員がプロジェクト学習に取り組み、展示、スライドで校内発表に参加した。また、県プロジェクト発表において、来年度の東北大会に全部門に全部門の出場権を獲た ●生徒会や農業クラブの活動への主体的参加を支援し、主体性やリーダー意識育成を図る機会の設定を推進していく。
確かな学力、健全な体の育成	① キャリア教育の充実 ア 計画に基づく組織的かつ系統的な進路指導 イ 地域や産業界との連携を踏まえた勤労観、職業観の醸成	○ 低学年からの進路相談の充実 ○ 学習会、進路指導の組織的対応 ○ 産業視察の実施 ○ 企業訪問及びハローワーク等との連携強化 ○ プロジェクト学習の充実・発展 ○ 資格取得実践	A	●年間計画に基づいた進路指導を実施。 1 学年:進路講話、職業体験、企業見学を通し企業理解を深めた。 2 学年:進路講話、インターンシップを実施し進路意識の高揚を図った。 3 学年:面接指導・講習等による目標達成に向けた個別指導の充実。 ●進路希望調査を踏まえて進路意識を高める、学力の定着を図る必要がある。学力定着を目標として、小論文や週末課題等に取り組む姿勢を醸成に努める。 ●資格については、技術講習試験や検定についてはある程度の合格率を維持できているが、国家資格同等やそれに準ずる資格の合格率が著しく低いことが課題。
	② 学力の充実・定着 ア 丁寧な基礎学習の実践と応用力の育成 イ 探究型学習と主体的・対話的で深い学びの推進 ウ 新しい技術を取り入れた農業教育の推進	○ 基礎学力定着 ○ 学び直し教材の活用 ○ 個別指導の徹底 ○ 地域課題解決型プロジェクト学習の推進 ○ アクティブラーニングの実践 ○ 個別指導の充実に向け、学年の協力を得ながら教科担当者会を実施し、教科担当者との情報共有を深めることが出来た。	B	●校内授業研究、授業評価アンケートを実施し授業の改善に取り組んだ。グループ研究授業をによる他教科の授業を参観する方法に取組み教員間の情報共有を図った。 ●基礎学力の定着を目的し、授業後や家庭学習時間の確保に取り組んだ。特に試験期間は1日平均2時間以上の学習時間の確保を学年や教科と連携して取り組んだ。 ●進路実現に向けた基礎学力の養成をめざして、週末課題(一般常識サポートドリル)を実施した。 ●個別指導の充実に向け、学年の協力を得ながら教科担当者会を実施し、教科担当者との情報共有を深めることが出来た。
	③ 健康な身体づくり ア 健康教育の充実 イ 部活動の充実	○ 食育の推進 ○ 肥満傾向生徒の減少 ○ 適切な休養を組み込んだ部活動	A	●保健体育の授業、委員会活動、生徒保健部による啓蒙を通して、大きな怪我等もなく保健室利用者数も前年度より減少している。 ●男子サッカー部が3年連続でインターハイ出場を果たし、東北選抜大会では16年ぶりに優勝するなど素晴らしい活躍を見せた。また、年末には全国選抜大会に3年連続で出場した。
	④ 個に応じた支援体制の充実 ア 教育相談 イ 特別支援教育	○ 定期的な校内での情報共有と研修実施 ○ 関係機関との連携による実効的な取組推進	A	●進捗委員会等で定期的に情報を共有し、個別の支援対応についていろんな意見を出し合い、カウンセリングや医療機関とも連携しながら対応することができた。また、支援員の協力を得て、要支援生徒には授業や定期テストの際に効果的に対応することが出来た。 ●スクールカウンセラー事業及び臨床心理士によるこころの健康づくり出前講座を活用し、養護教諭と連携して生徒の心の健康を保つ取り組みを行った。 ●様々な面で支援が必要な生徒については、養護教諭、特別支援教育支援員、SCとの連携、また家庭との連絡を密にすることにより適切な支援を継続する。
く地域と保わり、地域の期待に応える学校づくり	① 郷土・地域の理解 ア 家庭及び関係機関との情報共有 イ 新聞等の活用による社会情勢へ関心を持たせる指導	○ PTA・体育文化後援会等との密接な連携 ○ 1学級1新聞の活用による社会情勢への関心アップ	A	●プロジェクト学習を中心に、各部門で関係機関との連携やイベントに参加しながら学習活動を行った。(農協青年部、穀物検定協会、酪農教育ファーム、川西ダリヤ園、置賜総合支庁、高校間連携など。) ●PTA役員から、マナーアップ運動・列車乗車指導、置農祭PTA模擬店参加等にご協力を得た。
	② 郷土・地域との連携 ア 学校を取り巻くネットワークの拡大・充実 イ 地域活動への参画	○ 小中学校・NPO・先輩・企業等とのコラボレーション ○ 川西町等との連携 ○ 地域行事への参加	A	●稲作・酪農体験、食育、環境教育などで小学生などとの交流活動が活発であった。 ●「かわにし森のマルシェ」「川西産業フェア」「こまつ市」など地元販売会や置賜管内のイベントへ参加した。 ●地域の力を借りた授業(先端農業など)が盛んできている。今後とも学校で準備できないものを地域力の力を得ながら授業に還元していきたい。
	③ 郷土・地域等への発信 ア 実践・研究の成果還元 イ Webページの定期更新	○ 新鮮な学校情報の提供 ○ 学校メールへの対応 ○ 台南大学高級中学と交流	B	●『置農安心メール』やHP、置農インフォメーション発行等を活用した情宣に努め、生徒の活動及びPTA研修会等について情報発信できた。 ●PTA会報(110号)は地区高P連広報紙コンクールで上位2校に選ばれ、県高P連コンクールに推薦された。 ●PTA・体文総会は土曜日に開催したものの出席者が低調(出席率19%、H30. 18%)であった。参加率向上を検討する。 ●教員と生徒2名による台湾訪問を実施し、交流事業の進展を図った。
	④ 主権者意識の醸成 ア 生徒会活動等の推進 イ 各種講演会等の実施	○ 生徒会役員選挙での指導 ○ 選挙啓発講座	A	●自主的な生徒会運営を支援し、生徒会新役員に他校生と関わり研修を実施できた。 ●町選挙管理委員会の協力を得ながら選挙に関する出前講座等の実施を通し主権者意識の醸成を継続していく。
学校関係者評価				<学習指導に関して> ◆プロジェクト発表において全部門で実績を上げていることは、研究テーマの選定と指導の先生方と生徒のチームワークがうまくいっているのだと感じました。農業高校としての対外的な実績アピールには最大の効果を上げているのではないでしょう。 ◆週末課題の設定など、家庭学習の充実に努めているが、特定の期間への負担集中を避け、日々の負担が均等になるよう科目間で連携した予習や復習課題の設定を行い、継続的な家庭学習機会の提供を検討いただきたい。 ◆「マイサボ」という独自の学力向上策に取り組まれているが、先生方のご苦労に感謝しながらも、内容について常に吟味し今後も継続していただきたいと思います。 ◆蔵書整理を行うなど図書館環境の整備に努めている。在校生や保護者からの新刊要望や先生方からの推薦図書への提示などの工夫も検討いただきたい。 ◆以前から置農は読書活動に力を入れているが、特にここ数年間で図書館の改善活用が大きくなったと思います。生徒にとってお金のからず、かつ最大の効果を上げることできる学習方法だと思いますので、今後とも取り組んでいただきたいです。 <生徒指導に関して> ◆農業クラブのプロジェクト発表に感激しました。中学生にも是非聞かせたいと思う内容でした。中高ともに新たな人間関係を築いていくことが難しいという実感がわかりました。 ◆「いじめ」については、すべての事案で解決済みということでしたが、限りなく0」を目指していただきたいと思います。当事者間だけの解決で終わらずに事実を全生徒に伝え「決して許されるものではない」ということを全生徒に認識させることが「0」に結びついていくものだと思います。 ◆1学年の学校での問題行動やトラブルに対して、的確に対応されているので問題ないと思います。現在の置農の活躍は2、3学年の安定度によるものだと思いますので、今後入学生予定の新入生が同じようにならないよう対応をお願いします。 <進路指導に関して> ●確かな学力・豊かな心・健康な体の育成に向けて、様々な分野で大変よく取り組んでいただいているが、上級教育機関への進学者を増加させる方策も検討していただきたい。 ●卒業後の就職を考える場合、一部の実家が農家である生徒以外は現実的でない中、農業法人への就職という選択肢を模索する場合、勤め続けられる職場であるかの判断は慎重にお願いしたいです。 <保護者・地域等との連携に関して> ●稲作体験や置農ファンクラブなど小学生との交流活動が活発で、農家の子供たちが少ない今、子供たちが農業に触れることのできる数少ない体験の場であり、数年後の置農入学生希望者へ繋がるので今後も続けていただきたい。 ●置賜農業高校は各種イベントへの積極的な参加で新聞、テレビ等でその活躍が広く知られていますが、指導引率の職員負担が大きいことは想像に難くありません。難しい問題ですが、職員の労働環境への最大限の配慮をお願いいたします。 ●高校再編計画が進む中、置賜農業は置賜地域で残さなければならない高校であると思います。そのために学校だけでなく地域社会や同窓会との連携が必要だと思っています。置賜の農業の発展のためにも、川西地区だけでなく置賜全域での存続運動を広げていく必要があると思います。 ●志願者を増やすために、難しい課題もありますが、高校での学習内容や活動の魅力を中学生にもっと伝えられるよう努力していきたい。 ◆HPや各種メディア等の報道を通して、置賜農業の実践を見聞させていただいております。プロジェクト発表を拝見し、素晴らしい実践行われていることに改めて敬服しました。今後も探究型学習を推進させていただくことを期待しています。 ◆置農メールの活用はとてもよいと思います。ホームページの利用が少ないのはインターネット環境の変化で致し方ないと思います。Instagram、Facebookの利用は、広報としては最も効果的で、今や特別な物では無いと考えます。ご一考ください。